

自伐型林業の成果は

移住・定住など着実な成果



質問 平成27年以降、本市では自伐型林業の推進に取り組んでいるが、取り組みの成果と課題は何か。

答弁 これまでに、市内で自伐型林業により間伐された面積は、約34ヘクタールとなるなど、着実に成果が表れている。



大和田 加代子
(碧い風)

いる。また、自伐型林業に関する取り組みを介して、本市への移住・定住につながっていることも貴重な成果。現在、自伐型林業の研修に從事した地域おこし協力隊のうち、卒業生3人が林業関連の担い手として市内に居住し、地域の祭りや消防団活動などにも積極的に参加し、地域と密接な関わりを持っている。一方で、施業場所の確保や、自伐型林業以外の収入確保等が課題である。

果で、「コストが解消されるのであれば手入を望む」という人も一定数いることからその考えもあるかと思うが、問題は間伐した材の搬出と販売が課題となる。この点を、今後、森林組合や林業家など意見交換しながら検討していきたい。



手入れされた森林 (気仙町)

質問 卸電力市場の価格高騰が続いているが、本市公共施設へ電力を供給している陸前高田しみんエネルギー㈱の現状はどうか。
答弁 しみんエネルギーも卸電力市場より電力を購入していることから影響があると

補聴器購入の助成は

実施の方向で検討



質問 特に高齢者の日常生活上で、声や音が聞こえるかどうかは大きな問題だと思つて、補聴器は片耳で15万円から20万円といわれている。助成

制度の検討状況はどうか。
答弁 現行では加齢性難聴に国の支援はない。国や県などの動向を注視しながら検討する。

質問 難聴がきっかけでうつになられては困る。早期にどうにかすべきではないか。
答弁 実施の方向で補助額など、検討に入っている。

4回目のワクチンは

質問 新型コロナウイルス感染症に対する3回目のワクチン接種状況はどうか。



大坪 涼子
(日本共産党)

答弁 65歳以上の3回目接種率は92・8%で、12歳から64歳は74・7%と全国や県との比較では高くなっている。
質問 4回目のワクチン接種の対応策はどうか。
答弁 対象者は60歳以上のほか18歳以上で基礎疾患のある人で、3回目接種から5カ月以上経過した人が接種可能

され、本年9月30日と10月1日の2日間、本市の総合交流センター「夢アリーナたかた」を主会場に開催される。震災の教訓を伝えることがテーマになっており、被災地での開催に大きな意義を感じている。
質問 受入態勢はどうか。
答弁 参加者が最大で2千人と見込まれ、宿泊は市内・



補聴器

近隣市町のホテルや民宿などで調整されている。市から参加者に千円分の商品券とたかたのゆめ(2合)を配る予定。市内各種団体に大会運営やボランティア募集などの協力をお願い、参加者の思い出に残る大会になるよう取り組んでいく。

多様な就労支援策は

生涯現役に向け雇用側と呼掛け



質問 今後、多様な就労支援をどう強化していくのか。
答弁 生涯現役促進地域連携事業では、相談窓口をユニ

バーサル就労支援センターとシルバー人材センターの市内2カ所に設けている。高齢者になじみ深い業種について



畠山 恵美子
(翔成)

は、シルバー人材センターで、協力事業所への訪問など、新たな業務の切り出しをユニバーサル就労支援センターが行ってきた。就労支援の潜在的ニーズは非常に高く、本市の「ノーマライゼーション」という言葉のいらぬまじづくりに一環として、「働きづらさを抱えている全ての人」に対し、社会との関係性を回復し、その人なりの働き方を実現する。また、当事者だけでなく、雇用する側の企業・団体への雇用支援、中間的就労・導入支援なども行い、双方ともに安心して活躍できる環境づくりを各種団体とともに、引き続き支援していく。

今後のキャリア教育は

質問 キャリア教育において、女性の長い人生を想定した価値観の転換の必要性やその具体的手法は。
答弁 現在、各教科の学習や学校行事、委員会活動などを通じて、男女の役割分担を固定的に捉えることなく、社会・家庭生活を送る上での資質能力を身に付けさせている。また、子どもたちが将来、固定観念に捉われずに職業選択できる学習を展開している。しかし今後、女性の長い人生を想定した観念の学びが求められており、従来の価値観を転換していく学習が必要だ。教



生涯現役活躍シンポジウム

職員の「無意識の思い込みの解消」を各学校で推進できるように、各種会議や研修等で周知し、子どもたちが家庭生活や地域生活を基盤に仕事を位置づけたキャリア形成が進められるよう努める。